



農作業×E

ねぎの黒腐菌核病対策

1 症状・特徴

生育不良、外葉の黄化が起こり、葉鞘部に白いかびを生じた後、黒変・腐敗します。被害部に黒色・球形で微少な菌核を形成するため黒く見え、重症株は著しく生育が抑制され、葉鞘の黒変・腐敗により商品価値を失います。また、ほ場に残った菌核が、土壌中で長期間生存するため、次作のねぎに多発することがあります。

2 発生時期

比較的低温（5～20℃以上）を好み、菌の生育適温は15～20℃です。2～3月に被害が多くなる病気で、近年、年内収穫で減収する事例も見られます。

3 防除対策

単一の防除対策で確実な効果を得る

のは難しいため、過去に被害が出たほ場では、耕種的防除や土壌消毒、ねぎ生育期の農薬使用を組み合わせた総合的な防除対策が必要です。

(1) 輪作の実施

ねぎの作付けを5～6年避けます。夏から秋に、緑肥作物（カラシナ、ソルゴー等）を栽培します。

(2) 作型の変更

前回被害のあったほ場は、菌の生育適温下での栽培期間を短くするため、作型を年内どり秋冬ねぎにして、定植は5月以降にします。

(3) 土壌条件の改善

ほ場の排水性改善のため、暗きよや排水路の設置、耕盤の破碎、ほ場の均平化や傾斜化を行います。また、石灰質資材でpH調整を行います。

(4) 深耕の実施

深さ30cm以上の深耕は、菌核を土中

深く埋没するので、発病抑制が期待できます。

(5) 土壌消毒の実施

薬剤（ディ・トラペックス油剤、ガスタード微粒剤等）による土壌消毒を行い、土壌中の病原菌の密度低下を図ります。効果を安定させるため、薬剤処理後、ビニール被覆をします。

(6) 機械・器具の洗浄

他のほ場へ菌核の持ち込みを防ぐため、使用した機械（トラクタ、管理機のロータリ等）を洗浄します。

(7) 伝染源の除去

適宜、発病株の抜き取りを行います。発病株は菌核ができる前に、ほ場外で処分します。

(8) 農薬散布の考え方

菌の生育温度に合わせて農薬による防除を行いましょう（下図参照）。

1回目…9月下旬～10月上旬
（平均気温が20℃を下回る時期）

2回目…1回目の約1か月後
3回目…2月下旬（春どり作型）

（平均気温が5℃を上回る時期）

作型	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
秋冬どり	アフエットフロアブル①	アフエットフロアブル②					
春どり	アフエットフロアブル①	モンガリット粒剤①	▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲			アフエットフロアブル②	

平均気温が20℃を下回る9月下旬～10月上旬が農薬使用1回目の目安

1回目から約1か月空けて農薬を使用

平均気温が5℃を上回る2月下旬が農薬使用3回目の目安

アフエットフロアブル 株元灌注 1000～2000倍 1リットル/m² 収穫14日前まで
モンガリット粒剤 株元散布 6kg/10a 収穫14日前まで

図 9月以降の農薬使用例 平成29年2月1日付農薬登録情報